のである。さすが転職大国アメリカである。少しでも条件がよければすぐ転職しようとチャンスをねらっているのである。絶対転職しないと回答した者は12.3%だけである。転職希望者は女性の方が男性より多い。

スペシャリストかジェネラリストとして働いているのかを質問したら、ジェネラリストの方が多くて52.3%である。一般的に日本人はスペシャリストよりジェネラリストを養成し、アメリカではスペシャリストが多いと信じられているがこの調査の結果ではスペシャリストよりジェネラリストの方が多いのである。しかし、女性はスペシャリストの方が多くて52.2%を占める。

では「あなたの仕事を同じ学歴の人が学ぶ場合にどれくらい時間がかかりますか」という質問に対し、最も多いのは数ケ月で28.2%で、次に多いのは1年の24.5%である。男性の仕事は2年以上必要という回答が最も多いが、女性の仕事は数ケ月が最も多い。

では「仕事をする自由はどの程度ありますか」という質問に対しかなりの自由があるという回答が最も多く46.8%を占めるが次に多いのは完全に自由で43.2%である。しかし、男女別にみると男性の場合にはかなり自由があるという回答が最も多いが、女性の場合には完全に自由だという回答が最も多いのである。

「毎日同じ事を繰り返すような仕事はあなたの仕事の何%位を占めますか」という質問に対しては21－40%が最も多く32.3%を占める。次に多いのは0－20%で27.3%である。男女差はほとんどない。

「あなたの会社にははっきりした経営方針がありますか」という質問に対し最も多い回答ははっきりしていないで31.4%であり、次に多いのはかなりはっきりしているの25.5%である。大変はっきりしているは21.4%で、少しはっきりしているの20.9%を合計すると67.8%を占める。しかし、はっきりしていないという回答は女性の方が男性より多いのである。

QCサークルにはどの程度参加しますかという質問に対してはQCサークルはないという回答が最も多く58.2%を占める。次に多いのは時々参加するの19.5%である。いつも参加するという者は10.0%だけである。男性の方が女性より参加する割合が多いようである。QCサークルは生産現場に多いのでエリート達の職場にはQCサークルはないという回答が最も多いのは当然のことである。

では最後に組合について2つ質問をした。1つは労働組合のメンバーであるかどうかという質問であるがたったの4.5%が組合員だという結果である。これは管理職が多いので組合には入れない者が多いからであろう。過半数の50.9%は組合員ではないと回答している。また43.2%は組合はないと回答している。

もう1つの質問は「組合についてどう思いますか」という質問である。最も多い回答は「労働条件が良ければ労働組合はなくてもうまくやっていける」で81.4%を占める。これはやはり管理職についている者が多いためこのような回答が大部分を占めるものと思われる。

3) 仕事観

「あなたの仕事をうまくやるために、同じ会社の人々との個人的なつながりはどの程度重要ですか」という質問に対し、「きわめて重要」という回答が男女共に最も多く39.1%を占める。次に多いのは「非常に重要」の29.5%である。「やや重要」の22.7%も合計すると91.3%が重要だと考えているのである。

では「あなたの会社で昇進するのには仲間とうまくやっていくことが重要だと思いますかそれとも自己主張することが重要だと思いますか」という質問に対しては、男女共に最も多い回答は仲間とうまくやることが重要だと考えている。しかし、女性は非常に重要だと考えている者が50%で男性の39.4%より多い。反対に男性はやや重要だと考えている者が40.9%で女性の37%より多い。自己主張するアメリカ人でも昇進するためには仲間とうまくやることの方を優先しているようである。

「非常に独創的な考えは1人で働いている人によって作られると思いますか。それとも集団で働いている場合に作られると思いますか」という質問に対し、男女共に80%以上が集団の場合の方が良い考えがうまれると思っている。